



「五百川」(ごひゃくかわ) つて・・・(2)

JS福島再生プロジェクト推進室長
野村 充伸

新年あけましておめでとうございます。この寒いお正月はいかがお過ごしだったでしょうか。本年が皆様にとって良いお年になることを心より祈念いたします。

さて、前回に続き、郡山市にある県中浄化センターの最寄りの駅の「五百川(東北本線：郡山から福島へ向かって二つ目の駅)」に関する面白いトリビアを紹介させていただきます。

それは「五百川」というコメの超早生品種です。この品種は、2003年福島県本宮市の農家、鈴木清和さんがコシヒカリの中に生育の早い株を発見したところから始まりました。これはコシヒカリの突然変異種で、将来性があるとのことで、ササニシキ、ひとめぼれを育成した宮城県古川農業試験場の指導を受けることとしました。その後、7年間の育種を経て2010年より品種登録されました。名前は近くを流れる川に因んで、「五百川」としたそうです。

現在は、福島県中通り地域を中心に作付けが行われています。極早生の品種で、台風時期を避けて8月下旬には早場米として収穫可能だそうです。草丈が短く、耐倒性に優れているほか、耐冷性にも優れ、食味はコシヒカリのそれを継ぎ、良好であるとされています。実際に、平成22年度に松江市で開催された「第12回 米・食味分析鑑定コンクール国際大会」で、総合部門特別優秀賞を授与されています。それを裏付けるように、平成26年度には、440円/kgで販売されており、中堅どころの良い価格となっています。

ちなみに、「五百川」はたまたま突然変異として、発見されましたが、それ以外に人為的・遺伝的に品種を改良する方法もあります。突然変異も含めて、育種と言いますが、一般的な言葉の品種改良とほぼ同じ意味として使っています。突然変異のほか、主な手法として、交雑育種、遺伝子組換え、マーカー支援選抜(MAS: "Marker assisted selection"又は"Marker aided selection")などの手法があります。参考までにコシヒカリと他の稲との交雑育種で生まれた品種は、「ひとめぼれ」、「あきたこまち」、「ヒノヒカリ」などがあります。

最後に、本年が希望溢れた年となりますよう、併せて、福島の復興が着実に進むことを重ねて祈念して、今年最初の「ふくしまからはじめよう」といたします。